

令和5年度 江戸川区立鹿骨小学校 学校関係者評価 年度当初・中間報告書

学校教育目標	自立と貢献	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	<ul style="list-style-type: none"> ・「学力保障」を果たす学校 ・自立し貢献する児童 ・組織人として共通実践し、各学年での指導責任を果たす教職員
前年度までの学校経営上の成果と課題	<p><成果>・学校公開の保護者の感想や年度末評価において、おおむね満足いただいている。全国学力学習状況調査や東京ベネッセ・ドリル診断シート、学校独自の標準学力調査においても、着実に学力向上が図れている。</p> <p><課題>・全体的に学力は向上してきているが、高学年になるほど学力定着の二極化が見られる。・体力調査では、区の平均を下回る種目が多い。 ・特別支援教育の視点に立った学校運営、学級経営を推進していく必要がある。・統合に向け、地域との連携をさらに深めていく必要がある。</p>		

教育委員会重点課題	<取組項目>・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		年度末に向けた改善策
				取組	成果	成果と課題	評価	
学力の向上	<学力の向上> ・授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	①「誰一人取り残さない学力向上アクションプラン」の作成 ②各ブロックにおける一部教科担任制の実施 ③標準学力調査、東京ベネッセ・ドリル診断シートの実施 ④一人1台端末の利活用の推進 ⑤業者による放課後補習教室「カムバック教室」、全教員による補習「サンライズ教室」の実施 ⑥SP表分析に基づく「電子ドリル」等の効果的な活用	①全国学力調査、都学方向上調査「授業の内容はよく分かりますか」の肯定的評価90%以上 ②各学年で教科担任による授業や合同授業を実施 ③標準学力調査国語・算数の通過率80%、理科の通過率70%、東京ベネッセ・ドリル診断シート正答率70%通過率70%以上 ④各学年において1単元の学習の中で、必ず1回以上端末を活用 ⑤カムバック教室年150回、サンライズ教室年35回以上 ⑥「江戸川っ子studyweek！（家庭学習キャンペーン）」年3回実施、提出率・取組率90%					
	<読書科の更なる充実> ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	①朝読書・昼読書の時間の設定 ②学校図書館司書と連携した探究的な学習の実施 ③評価の実施 ④学校図書館の環境整備や興味・関心を高める取組の推進	①年間延べ23時間以上 ②各学年年1回以上、「江戸川っ子読書科コンクール」に全員参加 ③学校関係者評価年2回、自校及び保護者評価年1回 ④学校図書館司書との連絡会議年2回、館内案内板・分類板の刷新、年3回の読書月間におけるおすすめ図書紹介					
体力の向上	<運動意欲や基礎体力の向上>	①毎朝マラソンの実施、マラソン週間の設定 ②鹿骨タイム(休み時間を活用した運動遊び)の実施 ③スポーツ推進委員等の外部講師を招いた運動機会の確保 ④夏季水泳教室、校内水泳大会の実施 ⑤食育・健康教育の実施	①毎日実施、マラソン週間年3回の設定 ②月1回以上、体力調査項目の50%以上で区平均以上 ③各学年1回以上 ④夏季水泳教室12回実施、50mを泳げる高学年児童70% ⑤学校栄養士や養護教諭を連携した授業各学年1回以上、全校児童が毎日の歯みがき・フッ化物洗口30回以上					
共生社会の実現に向けた教育の推進	<特別支援教育の推進> ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実	①高齢の方や障害のある方、外国の方との交流活動 ②副籍交流の推進 ③スマイル教室(エンカレッジルーム)、教育相談室の環境整備 ④不登校児童や配慮が必要な児童への支援の充実	①各学年年1回以上 ②直接交流または間接交流を年2回以上 ③環境整備日3回以上、活動や相談がしやすい、落ち着いた明るい空間づくり ④スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、巡回心理士、巡回教員、特別支援教育専門員等との情報共有やミニ研修の場を月1回以上設定					
子どもたちの健全育成	<子どもたちの健全育成に向けた取組> ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・hyper-QUの活用	①江戸川区子どもの権利条例の理解 ②誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策「COCOLOプラン」に基づく確実な対応 ③「hyper-QU」の実施 ④情報共有や取組状況を確認する機会を確保 ⑤一人1台端末を活用した教育相談、「学校生活アンケート」の実施	①権利条例や命に関する授業を年3回以上 ②生活指導報告会や校務支援システムによる情報共有、週1回以上 ③「hyper-QU」年1回、結果に基づくケース会議の実施 ④月1回以上の連絡会実施、3・5年生のスクールカウンセラーによる全員面談 ⑤アンケートツールを活用した相談窓口常設、「学校生活アンケート」年3回以上実施					
地域に広く開かれた学校(園)の実現	<自校(園)の取組の積極的な発信> ・学校(園)ホームページの充実等 ・学校(園)公開の実施・充実	①授業参観日における評価 ②教育活動の積極的な発信	①年5日以上の学校公開日設定、年5回以上の参観アンケート実施 ②学校ホームページの記事更新週1回以上					
	<学校関係者評価の充実> ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	①保護者評価の実施 ②学校関係者評価の実施	①年1回(12月) ②年2回(9月と1月)					
特色ある教育の展開	<花の寄せ植え活動を始めた。地域への愛着や誇りを高める取組の充実>	①地域の花園やPTAと連携した花の寄せ植え活動やPTA花壇の花植え ②地域の人材や環境資源を生かした教育活動	①花の寄せ植え活動年1回、PTA花壇の花植え年3回 ②各学年年1回以上					
	<「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施>	①会議時間の短縮、校務支援システムの活用 ②各種研修・報告会のモジュール実施 ③定時退勤日や学校閉庁日の設定、連絡アプリ「tetoju」の活用	①校務支援システムの利用率100% ②服務事故防止研修、ICT活用研修の連続1時間以上設定をなくし、5分×年12回以上、延べ1時間以上を実施 ③月の時間外勤務時間平均60時間以内					